

6月議会一般質問から

大名： プルサーマル計画の事前協議申請には、 同意すべきではない。住民本位の対応を！

村長

真剣に、住民はもちろん、原電のほうも納得できるような、
お互いのそういう対話をして研究をしていきたい



「プルサーマルについては数々の争点があるというのは認識しています。そして自分自身がそれらについて確かな見識を持って言える状態というわけでもない。まだまだ勉強していく途上であります。

しかし一方では、国の政策としてプルサーマル計画がすすめられています。これは、基本的には主として、国際的な約束事、プルトニウムは持たないと、それが主。その中で、将来の高速増殖炉までにつなげる1段階として軽水炉でのプルサーマルの使用ということで進められておりました、そのことから原電に対しましては、政府からも電事連からも「1つの約束事」ということで、進めなければならない、この事情は私もよくわかります。

結局、問題があるということにつきましては、当然、行政の立場としましても、原子力安全懇談会等で自信を持って言えるようにしていく必要がありますし、また、住民の皆さんに対しては、原電はもちろん国の機関をはじめ十分な説明をし、住民に納得をしていただくと言うのが最も大事だろうと思っております。その際もご指摘された疑問点などは十分に納得いくよう双方の立場からの意見交換という、住民が判断できる場を作っていくことが重要なことと思っております。

中部電力、九州電力、四国電力で先行していくということですが、九州、四国は加圧水型ですが、中部電力浜岡原発は東海第二と同じ沸騰水型でのプルサーマルの実施となるのでそのような先行事例をしっかり見つめながらやっていきたいと思っております。何よりも肝心なことは住民の安全、地域の安全、東海村の将来ということなので、今申し上げたことは、もってる力を集めて理解できるような段階まで、みなさまに説明できるような段階までやっていきたいと思っております。

今の段階においては、組織的検討に入っているわけではないので、事前了解をすとかしないとか申し上げられる段階ではございませんし、そのように考えております。

ご忠告はそのとおり、プルサーマルについての意見はそれぞれありますが、基本的には一番は、村民の安全を守り、地域の安全を守る、東海村の将来を考えていくことが役場の職員のやるべきことでありますし、住民本位で考えていかなければならない。もちろん原電も東海村で50年やってきて、仲間だと思っております。ですからそのことも考えていかなければならないが、こと原子力と言うことになりますと、そのもってる科学的な力とその点での処理処分の難しさということを考えれば、もっと真剣に考えていきたいと思っております。

島根県松江市の職員で青木さんという方がいますが、もともとはそのポジションにはいなかったのだが、このプルサーマル問題について真剣に勉強しました。資源エネルギー庁のホームページから研究したり、いろんな学会の意見を集めたりして、その中で島根原発のプルサーマル計画に対する対応の方針を決めていったということを知り感動し、青木さんという名前を忘れることはできないでいます。

これは、そのことをやることは原電に対し迷惑をかけていることにはならないし、日本の原子力政策に対し迷惑をかけることにはならないと思っております。東海村がいい加減に対応したということになりますと、日本の原子力に対しての信頼、あるいは東海村に対しての信頼にヒビを入れることになります。この問題を受け入れて、真剣に住民はもちろん、原電のほうも納得できるようなお互いのそういう対話をして研究をしていきたいと思っております。